

気象台かわら版 別冊

建物の見所を徹底解説

時計

改修時には撤去されていた時計を創建時の写真等を元に復元しました。時計塔として地域のシンボルとなることが期待されます。



創建時の時計塔(左)と現在の姿



階段

失われた手すり金物を写真や図面等から復元しています。



創建時の階段室(左)と現在の姿

エントランス広場

既存棟と増築棟を繋ぐもので、新たな気象台庁舎のシンボリックなスペースです。中央に気象業務とも関連のある方位をあしらっています。柱の造形にも注目してみてください。



階段上からのエントランス広場

洗い出し

今回工事ではコンクリート躯体を残して仕上げの大部分は撤去しました。創建時の仕上げ表では「洗い出し」となっていましたので、色調を合わせながら復元しています。玄関脇の腰部等にオリジナルの「洗い出し」が残っています。



オリジナルの洗い出し(丸部)

ブラフ積みよう壁

旧米国海軍病院の遺構で山手の景観を特徴づける直方体の凝灰岩を交互に積み上げたよう壁です。庁舎とともに市指定有形文化財に指定されており、今回工事では最小限の改変に留めて往時の雰囲気を残しています。



往時の雰囲気を残るよう壁

見学可能です。

一般開放エリア

一般開放エリア

門柱

かつて庁舎の裏側にあった職員宿舍へのアプローチ部に設置されていたもので、増築棟のエントランスを設けるため撤去せざるを得ませんでしたが、ほぼ同位置に再設置しました。



B2F

業務中ですので見学はお静かにお願いします。また、文化財ですので取り扱いには注意して下さい。

3F

旧応接室

創建時の写真を元に仕上げや照明器具等を復元しています。



創建時の旧応接室(左)と現在の姿



外部窓

「敬意を払いつつ“対”となる」というコンセプトのもと、増築棟の窓廻りについては既存の意匠を踏襲しつつ、素材をコンクリートとするなど現代の技術によって表現しています。



増築棟の窓廻り

阿部式時計

創建時のものと推測される時計で、当時は塔の時計と連動していた痕跡が見つかっています。残念ながら今は動いていません(交換部品も世の中になくそう)が、雰囲気は継承するためそのまま存置しています。



玄関ホールと阿部式時計

玄関ホール

アーチ状の梁や柱型等アールデコの意匠が最もよく現れた空間です。直天井のため、照明の配管等をできるだけ目立たないよう工夫しています。床の板張りについても耐震壁と取り合う壁側を除いては張り替えずそのままとしています。



階段から見た玄関ホール

井戸

明治期の遺構と推測され、今回工事で掘削時に土中から姿を現しました。水は溜れていませんが、増築棟と干渉するため、上部の煉瓦でできた円筒形部分を切断の上、敷地内に展示することにしました。



発見された井戸(コンクリート蓋の下に煉瓦の円筒形が見える)と現在の姿

地震計室 **見学できません**

現役地震計が設置されています。外部建具は当初より3重となっていました。最も外側の建具は更新しましたが、内側2枚はそのままです。入口の建具はハンガードアとなっています。滑りが悪く開閉にはコツが必要ですが形状に特徴があることから調整を加えそのまま残しています。



地震計(左写真中央)とハンガードア(左写真奥)3重の建具(右写真)

横浜地方気象台建築データ

所在地	横浜市中区山手町99	既存棟データ	竣工	昭和2年3月
敷地面積	約2,485㎡	構造規模	RC造	地上3階地下1階
企画	国土交通省関東地方整備局管轄部	延べ面積	737.69㎡	
設計	安藤忠雄建築研究所	設計監理	神奈川県営繕管財課	
監理	国土交通省関東地方整備局横浜管轄事務所			
施工	大和小田急・三木経営建設共同企業体(建築) 扶桑電機株式会社(電気) 足立工業株式会社(機械) ダイコー株式会社(エレベータ)	増築棟データ	構造規模	RC造一部S造
			延べ面積	842.80㎡
				地上2階地下2階

